第２章：上人壇廃寺跡の概要

第１節：史跡指定の概要

（１）指定に至る経緯

上人壇廃寺跡については、古くから農耕中に瓦や土器が出土することで知られていましたが、その詳細については明らかになっていませんでした。

昭和 36（1961）年、東北本線の複線化工事にともない寺院の一部が破壊されることとなったことから、須賀川市教育委員会は国鉄盛岡鉄道局の協力を経て、昭和 36（1961）年に第１次・第２次調査を行い、須賀川駅拡張工事中に瓦窯跡や南北にのびる掘立柱列が発見されたことを期に昭和 37（1962）年、第３次発掘調査を実施しました。

この発掘調査で、六角形の瓦塔や瓦などが出土し、創建年代を８世紀前半頃、存続年代の下限を 10 世紀前後と推定しました。調査当時、発掘調査などで実態が判明している東北地方の古代寺院跡は、多賀城廃寺跡・陸奥国分寺跡の国府関連寺院を除くと上人壇廃寺跡のみであり、東北地方における古代寺院の実態を示す一例として学術的に価値が高いとの理由から、昭和 43（1968）年５月 28 日に、主要伽藍を含む 10,763.53 ㎡が国史跡に指定されました。その後、公有地化を進める中で、昭和 57（1982）年５月 21 日と平成 12（2000）年 11 月 15 日に追加指定を受け、13,885.75 ㎡の史跡指定地の公有地化が完了しています。

第４表　上人壇廃寺跡の指定に至る経緯

年　　度	関連調査	指定・公有化関連
昭和 36	東北本線複線化工事にともなう調査 （第１次・第２次調査）	
昭和 37	東北本線複線化にともなう調査（第３次調査）	
昭和 43		**国指定（昭和 43 年５月 28 日）**
昭和 48		用地買収 2,197.86 ㎡（国庫補助）
昭和 49		用地買収 8,402.70 ㎡（国庫補助）
昭和 51 ～ 55	保存目的の範囲確認調査	用地買収 242.19 ㎡（市単独購入）
昭和 57		**追加指定（昭和 57 年５月 21 日）**
昭和 58		用地買収 334 ㎡（国庫補助）
昭和 59		用地買収 336 ㎡（国庫補助）
平成 8	基準点復元測量業務	用地買収 1,817 ㎡（国庫補助）
平成 9	基準点復元に伴う遺構確認調査 状況地形測量調査	用地買収 295 ㎡（国庫補助）
平成 12		**追加指定（平成 12 年 11 月 15 日）用地買収 261 ㎡（国庫補助）**

（2）指定状況

（ア）指定告示

官報公示：昭和 43（1968）年 5 月 28 日指定　文化財保護委員会告示第 34 号
昭和 57（1982）年 5 月 21 日追加指定　文部省告示第 88 号
平成 12（2000）年 11 月 15 日追加指定　文部省告示第 169 号

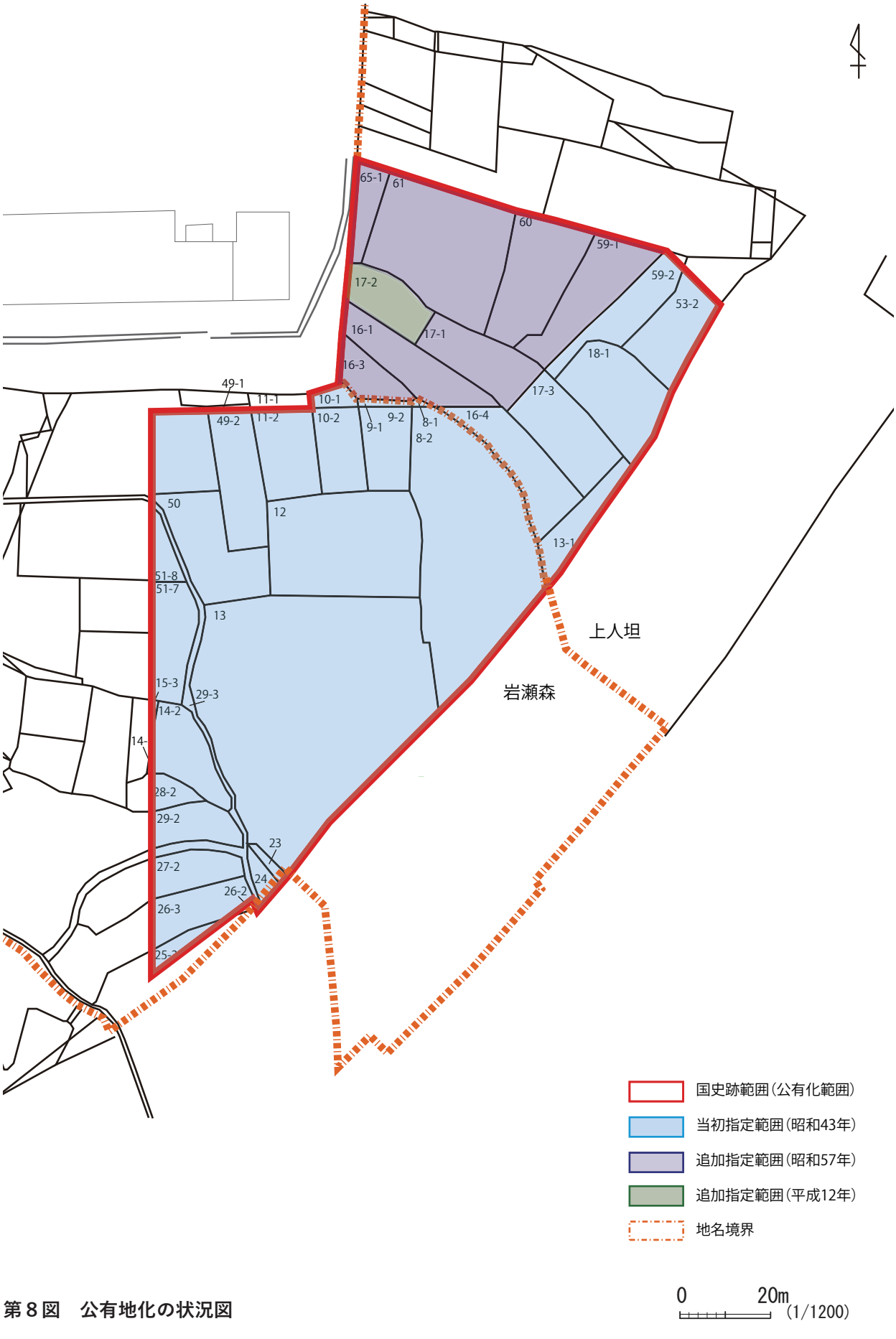
（イ）指定理由とその範囲

1．指定の概要

名　　称	国史跡上人壇廃寺跡
指定年月日	昭和 43（1968）年 5 月 28 日 昭和 57（1982）年 5 月 21 日追加指定 平成 12（2000）年 11 月 15 日追加指定
所 在 地	福島県須賀川市上人坦・岩瀬森
面　　積	13,885.75 ㎡（追加指定後の総面積） 10,763.53 ㎡（昭和 43（1968）年 5 月 28 日指定） 2,861.22 ㎡（昭和 57（1982）年 5 月 21 日追加指定） 261.00 ㎡（平成 12（2000）年 11 月 15 日追加指定）
基　　準	＜昭和 43（1968）年・昭和 57（1982）年・平成 12(2000) 年指定時＞ 特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準史跡の部第 3（社寺の跡）による。
説　　明 （告示文および文化財保護審議会資料による）	＜昭和 43（1968）年指定時＞ 東北本線須賀川駅の北側にあり、南北に長い段丘の南端に位置し、現地形は北側が一段と高く、漸次南に低くなっており、大部分は畑地である。 昭和 36 年の発掘調査により、中門、金堂、講堂などと推定されている建築遺構が南北にならんで発見され、また、掘立柱建物跡なども検出され、それらを囲んで東西約 80 メートル、南北約 84 メートルの規模を持つ二重の溝がめぐらされていたことが判明した。現在遺跡の南端は東北本線用地としてけずられているが、金堂推定地の土壇をはじめ、主要な遺構は残されており、また六角瓦塔の破片の出土は希有な例である。

	この寺は出土した古瓦類によれば、奈良時代から平安時代にわたり存続したものと考えられ、東北地方における地方寺院の実態を示す一つの例として学術的価値が高い。 ＜昭和 57（1982）年指定時＞ 奈良時代から平安時代にわたり存続した寺院である。南北に中門・金堂・講堂と推測される建築遺構が確認されたことによって史跡に指定されている。 昭和 51 年以来、確認調査が須賀川市教育委員会によって実施され、既指定地北縁とそれに接続する部分に東西八間、南北五間で東西棟の大形建物跡が検出され、更に、基壇を有する別の遺構及び金銅製の経軸頭が検出されている。この地域を既指定地に追加して指定し、一体として保存を図ろうとするものである。 ＜平成 12（2000）年指定時＞ 上人壇廃寺跡は、東北本線須賀川駅の北側の台地上に位置している。昭和 36 年の東北本線複線化工事を契機に発掘調査が実施され、奈良時代前期に創建され、その後平安時代に大きな改修が行われ、平安時代末期に焼亡した古代の寺院跡であることが確認された。その結果、昭和 43 年に史跡に指定され、整備のための調査により、遺構が北に延びていることが確認されたため、昭和 57 年に追加指定したものである。 創建期の寺は、南面し一辺 72 ｍの方形にめぐる築地の内部に、方形の基壇をもつ建物跡と掘り込み地業の上に建てられた建物が配置され、築地には南に翼廊の付く八脚門と東西に四脚門が取り付いている。方形の基壇の建物は、周辺から瓦塔の破片が多く出土していることから瓦塔を納めた堂と考えられており、掘込地業の建物は、桁行８間、梁間５間の金堂と推定される大型建物跡である。平安期は、北に拡張され、区画施設は築地から柵列に変わり、講堂と思われる建物跡が追加されている。 追加指定しようとする地域は、北に拡張された地域の一部で、今回承諾を得られたので、指定して保存を図ろうとするものである。
保存用件	(1) 発掘をしないこと。 (2) 遺物を採取しないこと。 (3) 現状を変更しないこと。
土地所有	指定地全域が須賀川市の所有である。

第 7 図　指定範囲



第８図　公有地化の状況図

第 5 表　公有地の地番と面積

地　　番	地　目	面積（㎡）	購入年月日	登録年月日	備　　考
岩瀬森 49-2	畑	360.43	S49.1.23	S49.3.12	S48 年度購入（国庫補助）
岩瀬森 47-2	宅地	298.24	S49.1.23	S49.3.12	
岩瀬森 50	畑	448.03	S49.1.23	S49.3.12	
岩瀬森 51-7	畑	270.64	S49.1.23	S49.3.12	
岩瀬森 51-8	宅地	80.29	S49.1.23	S49.3.12	
岩瀬森 14-2	畑	269.59	S49.1.23	S49.3.12	
岩瀬森 15-3	畑	3.15	S49.1.23	S49.3.12	
岩瀬森 28-2	畑	67.58	S49.1.23	S49.3.12	
岩瀬森 29-2	田	187.27	S49.1.23	S49.3.12	
岩瀬森 27-2	田	190.64	S49.1.23	S49.3.12	
岩瀬森 23	畑	22.00	S49.1.23	S49.3.12	
小計	11 筆	2,197.86			
岩瀬森 26-3	畑	219.28	S49.12.24	S50.2.1	S49 年度購入（国庫補助）
岩瀬森 25-3	畑	57.20	S49.12.24	S50.2.1	
岩瀬森 24	畑	57.30	S49.12.24	S50.2.1	
岩瀬森 13	畑	2,769.10	S49.12.24	S50.2.6	
岩瀬森 8-2	畑	1,528.78	S49.12.24	S50.2.1	
岩瀬森 9-2	畑	238.17	S49.12.24	S50.2.1	
岩瀬森 10-2	畑	233.90	S49.12.24	S50.2.1	
岩瀬森 11-2	畑	315.58	S49.12.24	S50.2.6	
岩瀬森 12	畑	920.30	S49.12.24	S50.2.6	
上人坦 13-1	畑	206.50	S49.12.24	S50.2.1	
上人坦 16-4	畑	392.43	S49.12.24	S50.2.6	
上人坦 17-3	畑	409.80	S49.12.24	S50.2.1	
上人坦 18-1	畑	466.60	S49.12.24	S50.2.1	
上人坦 53-2	山林	311.53	S49.12.24	S50.2.1	
上人坦 59-2	畑	276.23	S49.12.24	S50.2.6	
小計	15 筆	8,402.70			
上人坦 17-1	畑	334.00	S58.12.12	S58.12.14	S58 年度購入（国庫補助）
上人坦 16-1	公園	336.00	S60.1.26	S60.2.8	S59 年度購入（国庫補助）
上人坦 61	畑	917.00	H8.10.31	H8.11.20	H08 年度購入（国庫補助）
上人坦 59-1	畑	400.00	H8.10.31	H8.11.20	
上人坦 60	畑	500.00	H8.10.31	H8.11.20	
小計	3 筆	1,817.00			
上人坦 16-3	畑	156.00	H9.11.13	H9.12.1	H09 年度購入（国庫補助）
上人坦 65-1	畑	139.00	H9.11.13	H9.12.1	
小計	2 筆	295.00			
上人坦 17-2	畑	261.00	H13.2.9	H13.3.2	H12 年度購入（国庫補助）
岩瀬森 8-1	公園	6.22	S51.8.12	S54.6.12	市単独事業（史跡地外）
岩瀬森 9-1	公園	22.00	S51.8.12	S54.6.12	
岩瀬森 10-1	公園	51.00	S51.8.12	S54.6.12	
岩瀬森 29-2	道路	162.87			
市単独購入小計	4 筆	242.19			
合　　計		13,885.75			
岩瀬森 14-1	公園	9.41	S51.10.22	S54.6.5	市単独事業（史跡地外）
岩瀬森 11-1	畑	55.00	S51.10.22	S63.4.7	
岩瀬森 49-1	畑	5.57	S51.10.22	S63.5.17	
市単独購入小計	3 筆	72.98			

第２節：史跡を取り巻く環境

（１）周辺の地勢

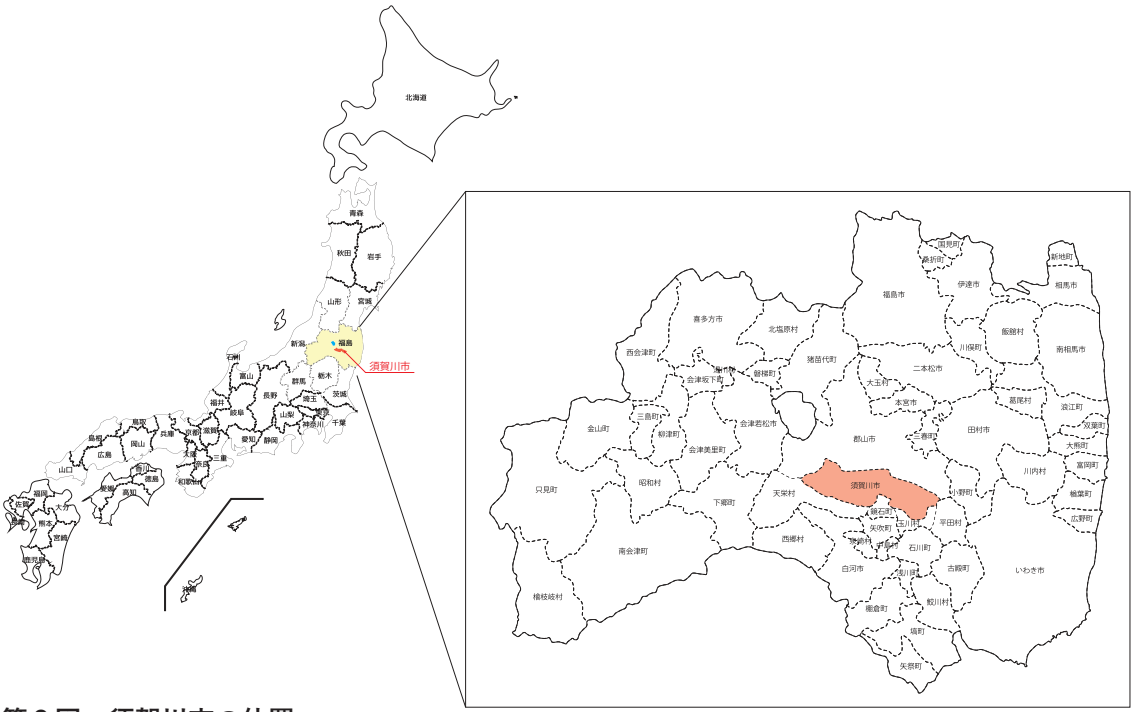
上人壇廃寺跡の所在する須賀川市は、福島県のほぼ中央に位置します。

福島県は、南北方向に延びる奥羽山脈と阿武隈山地を境にして、太平洋側から「浜通り地方」・「中通り地方」・「会津地方」に分けられますが、本市は「中通り地方」の中央やや南側に位置します。

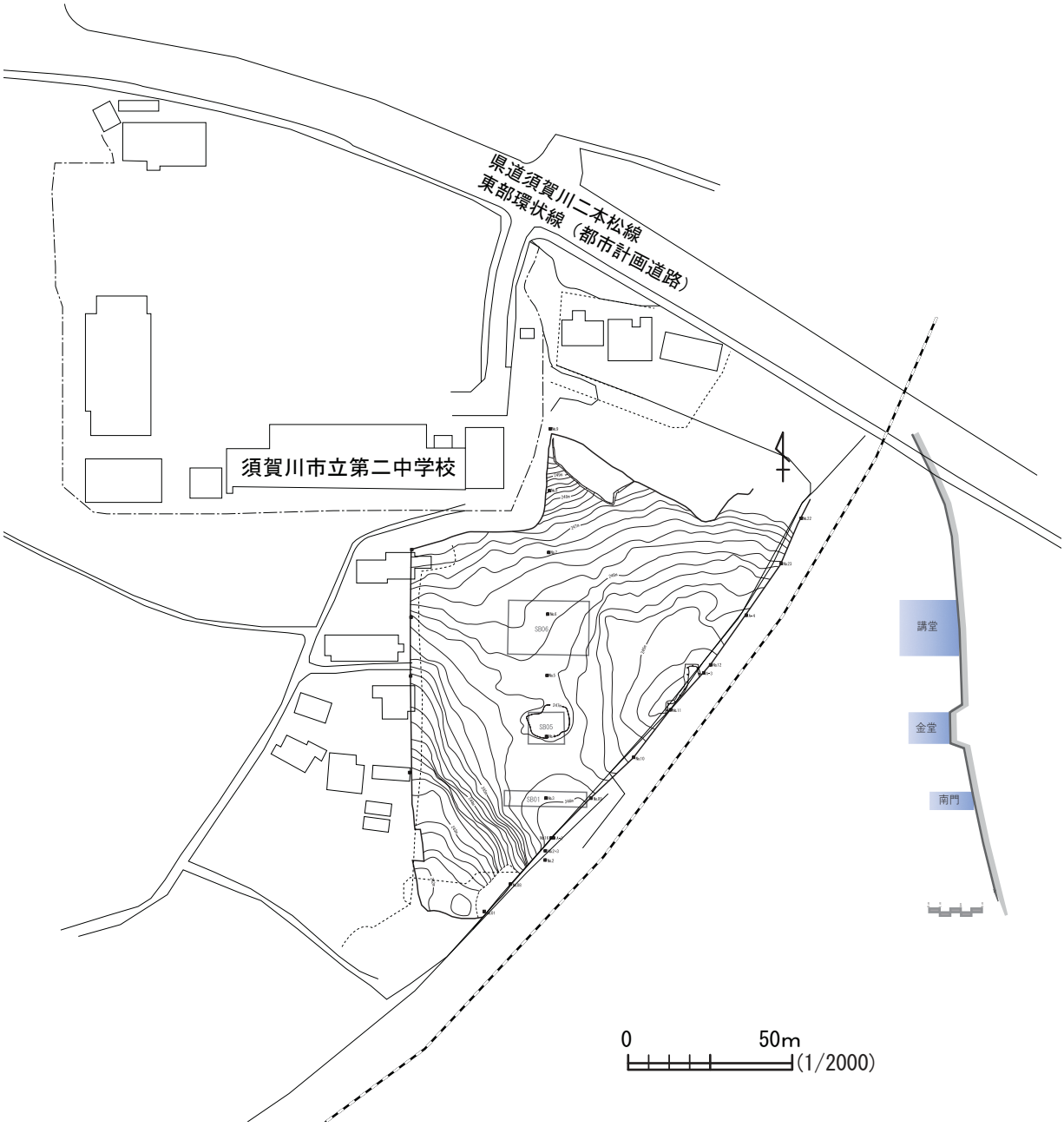
市内の中央部を、那須火山群（通称：那須連峰）に端を発する東北地方で有数の大河である阿武隈川が北に流れ、それに合流する釈迦堂川や滑川などの河川が東西方向に流れています。

本市の面積は 279.43 ㎢で、東西 37.9 ㎞、南北 16.5 ㎞と東西方向に長く、北は郡山市、南は岩瀬郡鏡石町、石川郡玉川村、岩瀬郡天栄村、東は石川郡平田村、西は郡山市及び天栄村の１市１町３村と隣接しています。東西方向に長い市域のため、気候は大きく異なり、冬は中央部から東部地域にかけて降雪量が少ないですが、会津地方に似た気候と西部地域は降雪量が多いのが特徴です。

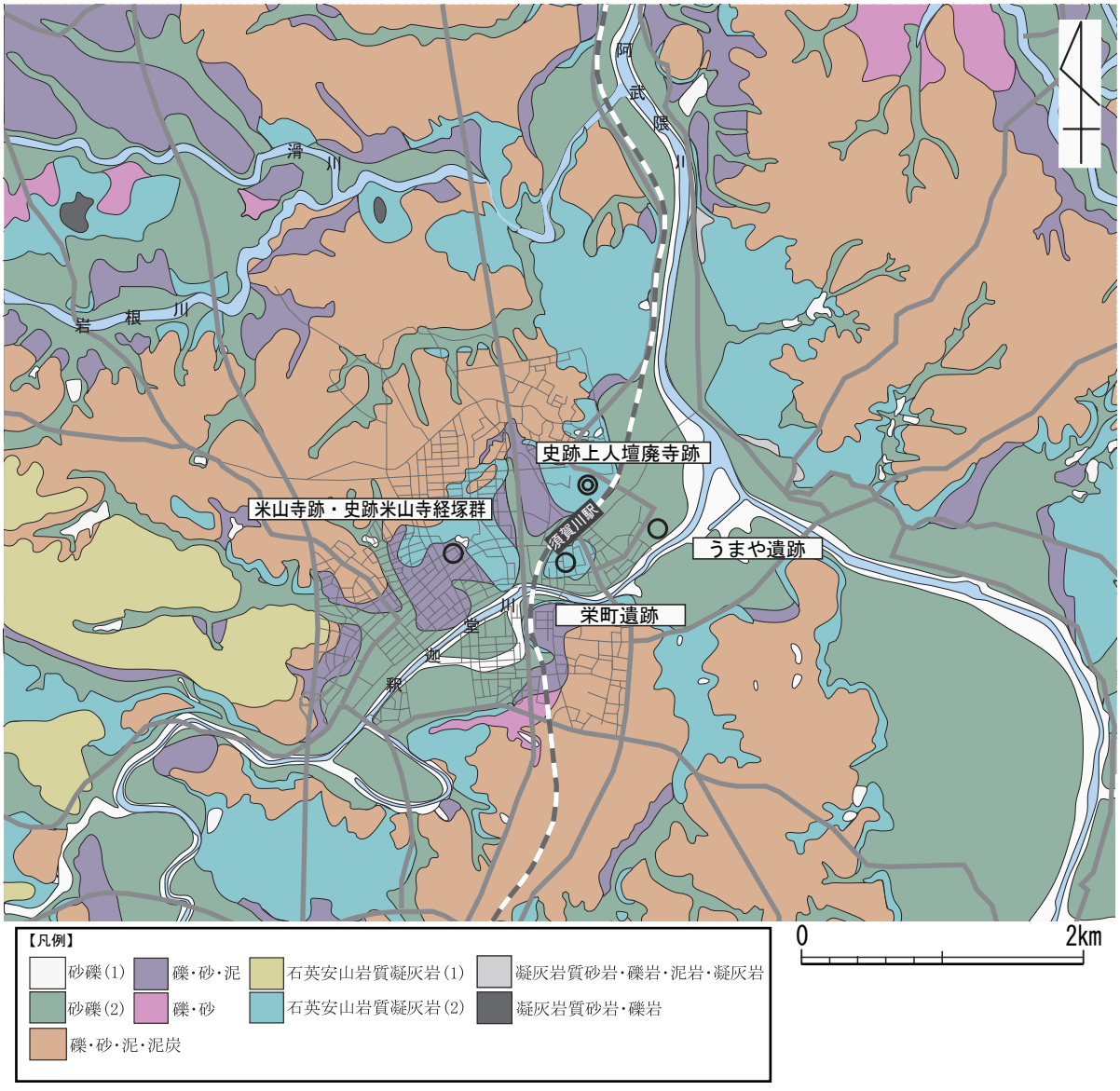
上人壇廃寺跡は、北から南に向かって緩く傾斜する丘陵上に立地し、特に東側や南側にひらけた地形となっています。地質的には、基盤が古期花崗閃緑岩で、その上部に地元で江持石（えもちいし）とよばれる石英安山岩質凝灰岩とその風化層が堆積しています。この石英安山岩質凝灰岩上の地盤的に安定した場所に上人壇廃寺跡や栄町遺跡、米山寺跡などが立地しています。



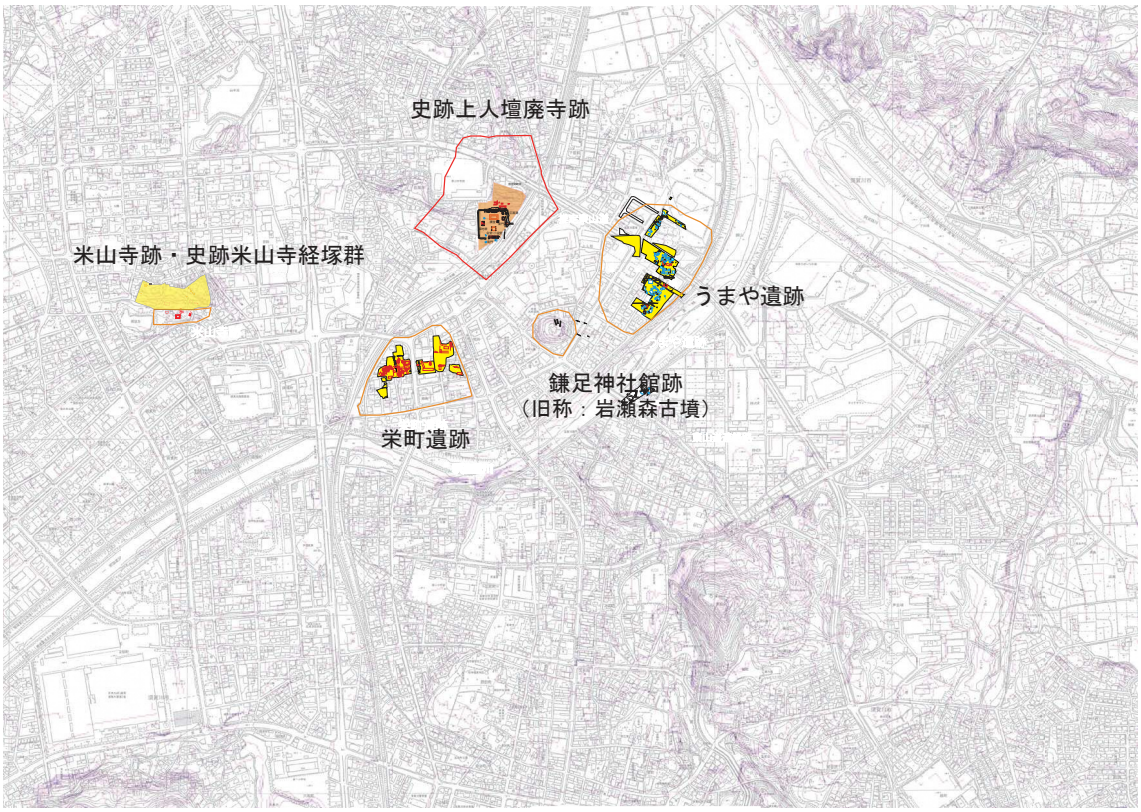
第９図　須賀川市の位置



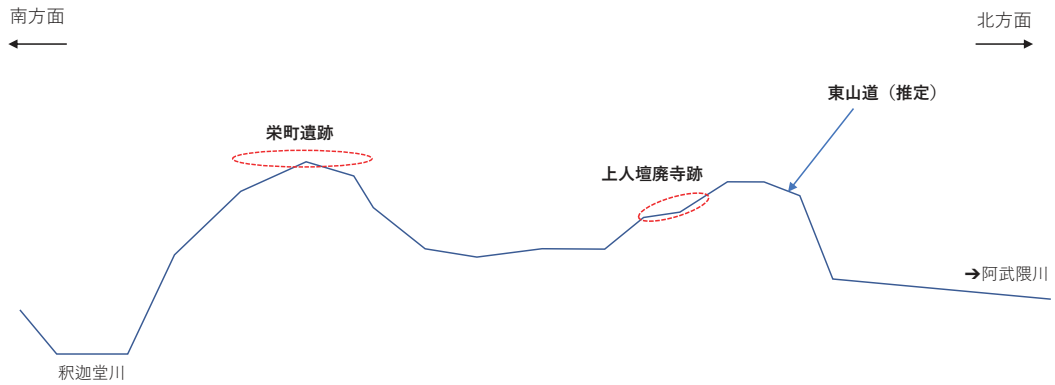
第 10 図　上人壇廃寺跡の周辺地形図・南北軸断面図（建物の高さは想定）



第 11 図　上人壇廃寺跡の周辺地質図



第 12 図　上人壇廃寺跡の周辺等高線図



第 13 図　上人壇廃寺跡の周辺の断面概略図

（２）上人壇廃寺跡周辺の植生

上人壇廃寺跡の植生は、『古事記』や『万葉集』に「ツバナ」と呼ばれたチガヤ（茅萱）、オオバ、ヤブカンゾウ（藪萱草）、ジャノヒゲ（リュウノヒゲ）等の在来植物が多く自生しています。また、樹林地にはコナラ・クリ群集の高木による良好な雑木林がみられますが、市街地化が進む駅前地区では貴重であり、史跡の生態的価値を高めています。

上人壇廃寺跡の指定地並びに周辺地について「平坦地」「斜面地」「樹林地」「そのほか」に分けて、それぞれの植生の概略について下記にまとめます。

【平坦地】

・チガヤ、ヤブカンゾウといった在来植物がみられます（チガヤ・ヤブカンゾウ群落）。
・牧草類やセイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ等の帰化植物が在来植物を脅かす存在としてみられます。

【斜面地】

・オオバ、ジャノヒゲ（リュウノヒゲ）、シダ類といった植生がみられます（ジャノヒゲ・シダ群落）。
・平坦地同様、牧草類、セイタカアワダチソウ等の帰化植物が在来植物を脅かす存在としてみられます。
・そのほか、クローバー（帰化）やヨモギ（在来）、ギシギシ（在来）、ノギク類（在来）等が自生しています。

【樹林地】

・コナラ･クリ群集の高木による良好な雑木林が見られ、史跡の生態的価値を高めています。平地､斜面地の草原（蝶など）と樹林地（鳥など）が一体となって､多様な生態系が成り立っています。
・樹林地からの史跡全体、並びに周辺地の眺望の確保が重要です。さらに史跡指定地外を含む樹林地は住宅地とのバッファゾーンとして寄与しています。
・中木としてはシラカシ、低木としてはアオキ、ムラサキシキブが見られます。また、一部でスギが植林されています。
・斜面、土留め部分に繁殖力が高いニセアカシヤがみられ、アズマネザサの存在が中低木を貧弱にしていることが挙げられます。

【そのほか】

・須賀川第二中学校の土留め（間知石）として使われている石材は「江持石」が用いられています。
・平坦地と斜面地の草地には、日本在来の草木が自生していますが、帰化植物である牧草類によって被圧、減少化の傾向にあります。管理にあたっては、草刈りの回数を増やすことによって、帰化植物を制御し、この土地にあった植生を再生でき、また、樹林地においても、帰化植物のニセアカシヤや、在来であってもほかを駆逐するアズマネザサを駆除することによって、本来の二次林を再生することができると考えます。

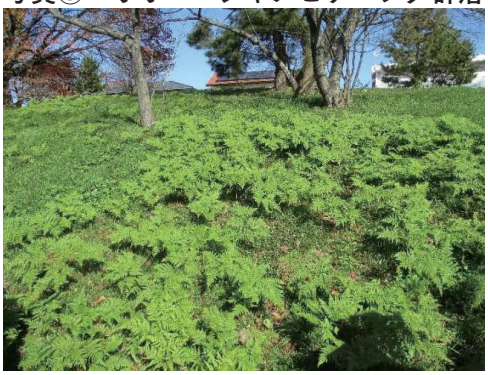
第 14 図　植生調査区分

第 15 図　航空写真（引用：国土地理院 2015.7.21 撮影（加工））

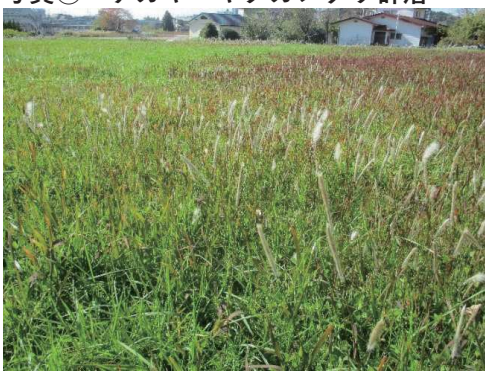
写真①　樹林地の全景

写真②　傾斜地の全景

写真③　オオバ・ジャノヒゲ・シダ群落



写真④　チガヤ・ヤブカンゾウ群落



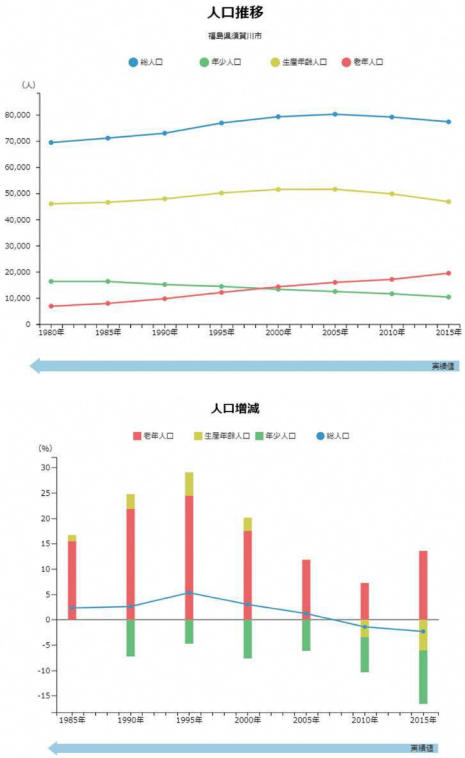
写真⑤　斜面地から基壇等の史跡全景

（3）社会的環境及び周辺市街地の状況

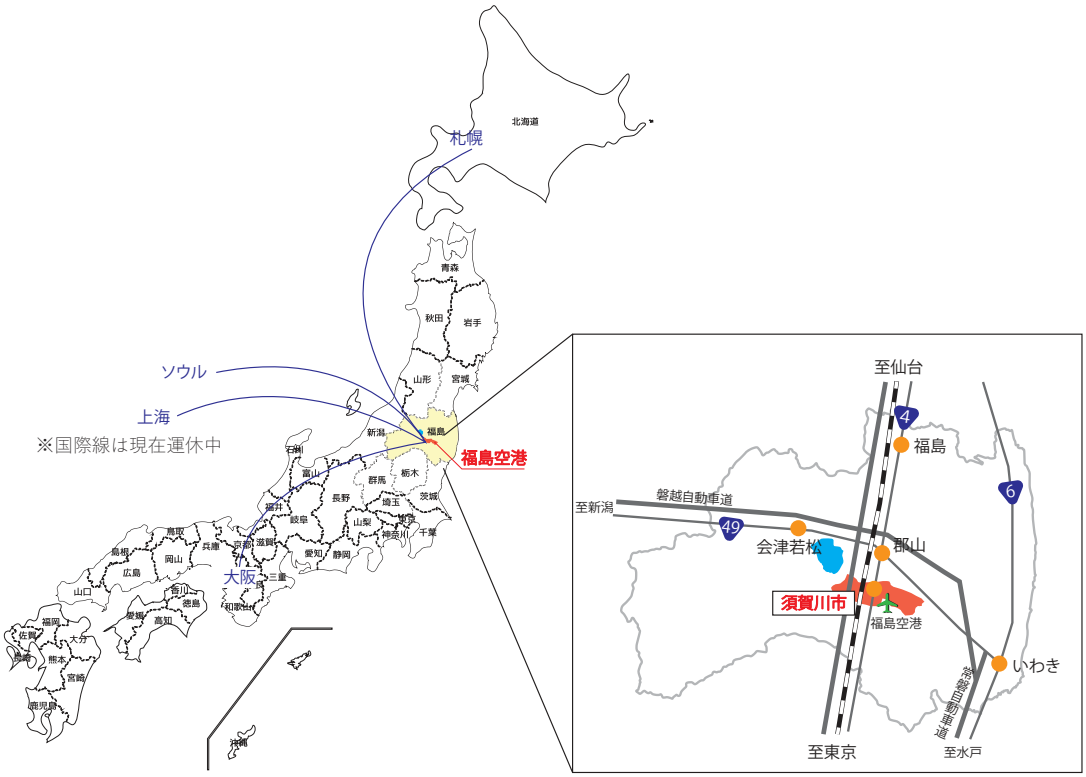
本市の人口は、平成 29（2017）年 8 月 1 日 76,620 人（男性：37,583 人、女性：39,037 人）、世帯数は 26,766 世帯となっています。人口の推移は、平成 17（2005）年の 8 万人をピークに減少傾向に転じ、福島県及び近隣市に比べ、減少は緩やかに進んでいます。

交通は、市の中央部に東北縦貫自動車道、国道 4 号、東北本線、東北新幹線、東部に水郡線が通り、道路・鉄道ともに首都圏や仙台圏へのアクセスが容易です。また、会津地方から茨城県への主要幹線である国道 118 号は会津地方への主要道路であり、市の南部でこれに接続する県道古殿須賀川線などは、いわき市など太平洋側に至るアクセス道です。

加えて、平成 5（1993）年に開港した福島空港が市の東部に位置しており、陸路・空路ともに県内でも交通の利便性に優れた地域です。



第 16 図　須賀川市の人口（地域経済分析システム RESAS より）



第 17 図　須賀川市へのアクセス

産業は、米、野菜、果実を中心とした農業を基幹産業としており、きゅうり、トマト、なす、さやいんげんなどを中心に多くの品目が栽培される夏秋野菜産地となっています。特にきゅうりは「岩瀬きゅうり」として全国的に有名で、毎年７月にはきゅうりを奉納する「きうり天王祭」が行われています。工業は、電気・鉄鋼・化学・生産用機械器具製造が中心です。

伝統産業は、230 年前に白河藩主松平定信公に見いだされた銅版画家亜欧堂田善が、和紙や布地に鍾軌を描いたことを起源とする、端午の節句に男子の成長を祝う「須賀川絵のぼり」や、「江持石」を用いた石材加工などがあります。

観光資源は、牡丹園として日本唯一の国指定名勝である「須賀川の牡丹園」、約１万発の花火が夜空を彩る「釈迦堂川花火大会」、つつじ約 3,000 株を誇る「大桑原つつじ園」、日本三大火祭りとして数えられる「松明あかし」等が挙げられます。

また、特撮の神様と称される円谷英二監督の出身地であり、ウルトラマンの故郷「M78 星雲　光の国」と姉妹都市を結び、仮想都市「すかがわ市 M78 光の町」を WEB 上に開設するなど、ウルトラマン関連事業を展開するほか、円谷英二ミュージアムや特撮アーカイブセンターの整備など、特撮を文化として継承する取組を進めています。

このような地域資源等を活用し、歴史資源との連携を図りながら、更なる交流人口の拡大に努めます。

松明あかし

**市街地に位置している
ウルトラヒーロー
モニュメント**

第６表　主な観光の人数

（福島県観光客入込状況（平成 28 年分））

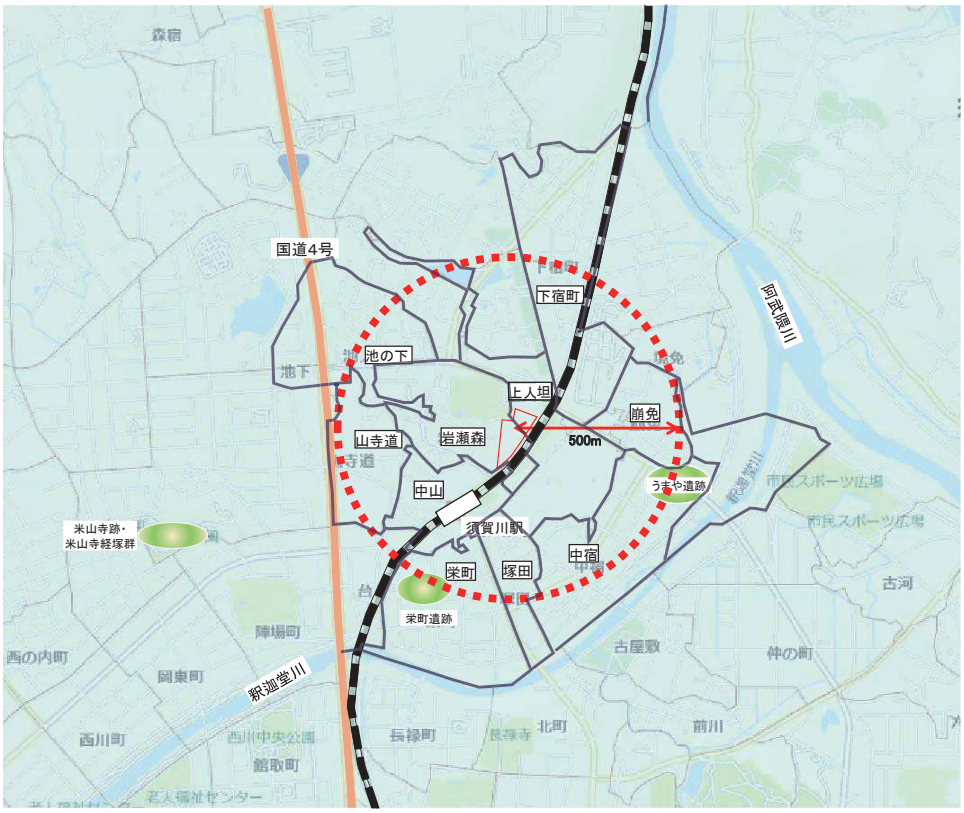
施　　設　　名	H26	H27	H28	伸び率
藤沼湖自然公園	0	0	0	—
須賀川市牡丹園	44,920	51,207	50,051	11.4
ムシテックワールド	62,618	56,942	65,045	3.9
ローレルバレイカントリークラブ	35,057	31,967	33,876	△ 3.4
須賀川市内ゴルフ場１	21,004	19,573	23,101	10.1
はたけんぼ	597,800	566,600	599,300	18.2
松明あかし	110,000	140,000	130,000	18.2
長沼まつり	30,000	30,000	30,000	0.0
須賀川市釈迦堂川花火大会	300,000	250,000	300,000	0.0
須賀川市内ゴルフ場２	33,835	31,111	36,789	8.7

■史跡上人壇廃寺跡周辺の人口動態

上人壇廃寺跡周辺の平成 21（2009）年から 29（2017）年の住民数・年齢構成などの人口動態を第 7 表にまとめました。対象範囲は、上人壇廃寺跡から半径 500m（徒歩圏と想定）としています（岩瀬森、崩免、栄町、上人坦、塚田、中山、中宿（中曽根含む）、山寺道、下宿町、池ノ下町の 10 地区）。

上人壇廃寺跡からの徒歩圏人口をみると、平成 29（2017）年は約 3,200 人となっています。また、人口動態（平成 21（2009）年から 29（2017）年）をみると、徒歩圏域全体の人口は増加しています。字別にみると、須賀川駅及び上人壇廃寺跡周辺の地区（中山・岩瀬森・上人担など）では人口減少がみられ、その外周部（下宿・中宿など）では大幅な人口増がみられます。平成 29 年の年齢区分別人口を見ると、徒歩圏域全体の 0 ～ 19 歳人口割合は 19.7%で、市全体の 18.4%よりやや高く、65 歳以上の老年人口割合は 22.6%と、市全体の 26.3%よりもやや低くなっており、若い人が多い地区であると言えます。字別でみると、人口が増加している地区（栄町、塚田、中宿、下宿など）で老齢年齢割合が低くなっており、若い人が流入していることがうかがえます。

以上の通り、上人壇廃寺跡周辺の半径 500m 圏（徒歩圏）には約 3,200 人の人口があるものの、上人壇廃寺跡を中心とした近隣に公園がないこともあるため、本史跡は公園に準じた役割が期待されます。また、高齢者の利用はもとより、同圏域の若年人口率が比較的高いことから、子どもたちの利用も想定されます。



第 18 図　上人壇廃寺跡と周辺の徒歩圏調査範囲

第 7 表　上人壇廃寺跡から 500 m圏内の字別人口動態（平成 21 ～ 29 年）

上人壇から概ね500m 圏内の字名		岩瀬森	崩　免	栄　町	上人担	塚　田	中山	中宿・中曽根	山寺道	下宿町	池ノ下町	合　計	須賀川市計
年別人口	H 21	288	84	510	172	208	130	484	209	534	380	**2,999**	**80,390**
	H 23	314	106	524	165	217	133	522	211	588	379	**3,159**	**79,323**
	H 25	312	117	515	148	212	135	549	206	641	384	**3,219**	**78,578**
	H 27	322	212	502	160	207	136	568	224	677	355	**3,272**	**78,033**
	H 29	282	71	525	147	230	111	630	204	967	355	**3,252**	**77,226**
人口増減割合	H 21→H 25	24	33	5	▲ 24	4	5	65	▲ 3	107	4	**220**	**▲1,812**
	H 25→H 29	▲ 30	▲ 46	10	▲ 1	18	▲ 24	81	▲ 2	56	▲ 29	**33**	**▲1,352**
	H 21→H 29	▲ 6	▲ 13	15	▲ 25	22	▲ 19	146	▲ 5	163	▲ 25	**253**	**▲3,164**
人口増減割合	H 21→H 25	3.8%	39.3%	1.0%	-14.0%	1.9%	3.8%	13.4%	-1.4%	20.0%	1.1%	**7.3%**	**-2.3%**
	H 25→H 29	-9.6%	-39.3%	1.9%	-0.7%	8.5%	-17.8%	14.8%	-1.0%	8.7%	-7.6%	**1.0%**	**-1.7%**
	H 21→H 29	-2.1%	-15.5%	2.9%	-14.5%	10.6%	-14.6%	30.2%	-2.4%	30.5%	-6.6%	**8.4%**	**-3.9%**
H29年齢区分別人口	0 ～ 19 歳	53	9	100	24	49	16	142	41	165	43	**642**	**14,215**
	20 ～ 64 歳	169	45	302	80	130	54	359	118	453	164	**1,874**	**42,690**
	65 歳以上	60	17	123	43	51	41	129	45	79	148	**736**	**20,321**
H29年齢区分別人口割合	0 ～ 19 歳	18.8	12.7	19.0	16.3	21.3	14.4	22.5	20.1	23.7	21.1	**19.7**	**18.4**
	20 ～ 64 歳	59.9	36.4	57.5	54.4	56.5	48.6	57.0	57.8	65.0	46.2	**57.6**	**55.3**
	65 歳以上	21.3	23.9	23.4	29.3	22.2	36.9	20.5	22.1	11.3	41.7	**22.6**	**26.3**